

平成27年度第25回「中村元東方学術賞」授賞式

平成24年10月10日 於インド大使館

第25回中村元東方学術賞審査委員会報告

ただ今から審査委員会における選考経過をご報告し、併せて授賞理由を申し述べさせて頂きたいと思います。

さて、この度の選考に際しましては、〈「中村元東方学術賞」審査委員会委員〉の先生方の他に、過去24回にわたりまして東方学術賞を受賞された方々にも、「中村元東方学術賞」に相応しい功績のある研究者の推薦方をお願い致しました。諸先生から推薦された研究者は、それぞれにすぐれた業績を挙げられており、選定は困難を極めましたが、慎重審議の結果、皆様にご案内状でご報告申し上げましたように、第25回の中村元東方学術賞を

三友健容立正大学教授

に授与することに決定致しました。授賞理由は以下の通りであります。

受賞理由

三友健容博士の学問上のご功績は、説一切有部のご研究において極めて顕著であります。説一切有部は、周知のように、インド北方で活躍し、大乘佛教に計り知れない影響を与えてきた上座部佛教最大の学派であります。

まず博士は、説一切有部と『法華経』などの大乘佛教との関係を発表し、『大毘婆沙論』が『法華経』の小善成佛説を批判していることなども発表され、法華経教団と説一切有部とがガンダーラ、カシュミール方面で競合していたであろうことを論証し、上座部佛教は大乘について一切語らないという従来学会の定説を覆えされました。

三友博士の最も顕著なご功績は、漢訳もチベット語訳もない有部の最後の論書『アビダルマデーパ』(Abhidharmadīpavibhāṣāprabhāṣṛti)のご研究にあります。本論書のテキストは、1959年にはじめて出版され、説一切有部の最後の論書として、学界の注目を集めました。が、解読研究を試みるものがなく、長い間その全貌は不明でありました。第二次大戦後中村元先生のご努力で約40年間途絶えていた日中佛教学者の交流が再開され、三友博士は1982年に北京大学に招待され、所在不明であった『アビダルマデーパ』の写本を民族文化宮の貴重図書保存庫で発見されました。これによりジャイニ博士(Professor P.S.Jaini)も解読不能としていた箇所も確認され、三友博士はカルフォルニア大学(バークレー)のジャイニ博士のもとで2年間解読と研究を行われることになりました。この成果は1986年『アビダルマデーパを中心とした有部教学の研究』

(*Study on the Doctrine of Sarvāstivādin, Focusing on Abhidharmadīpa*)と題する博士請求論文として立正大学に提出され、立正大学より文学博士号を取得されました。

この学位論文は、2007年『アビダルマディーパの研究』(*Study of Abhidharmadīpa*)として平楽寺書店より出版されました。その際、①フラウワルナーなどの従来の世親二人説に対して大乘転向の一人説が有力であることを示し、②『アビダルマディーパ』が大乘の中観派を論破していることを究明し、また大乘の佛寿無量説を外道説であると糾弾していることなどを論証されました。三友博士は本学位論文によって、2009年の日本印度学佛教学会学術大会において、鈴木学術財団特別賞を受賞されました。

また最近、ポタラ宮殿から新たに発見された『アビダルマディーパ』の写本によって『アビダルマディーパ』の欠損箇所をすべて解読し、アーラヤ識思想に対する辛辣な批判があること、本書の著者が玄奘の『大唐西域記』に叙述されていた「伊湿伐羅」(Īśvara)であることを論証されました。

三友博士はまた、『法華経』研究にも強い関心をもたれ、『法華経』のサンスクリット語写本36種を校合した『梵文法華経写本集成』全12巻の編集者の一人として活躍し、中国撰述とされていた法華三部経の一つ『無量義経』がインド撰述であることを論証し、『大毘婆沙論』における三種菩提説と『法華経』の声聞成佛説などの密接な関係を論究されました。

一方、三友博士は学問研究を社会に還元するために、①国際社会において環境問題の解決に佛教が果たす役割を提唱され、②ダライ・ラマ法王日本代表部事務所の開設が大国の横槍のために挫折した折りにその開設を実現させて、チベット難民救済をおこない、さらに③バンダラデッシュ佛教徒救済事業を行うアグラサーラ協会副代表として、④またシュリーランカ佛教徒の救済事業を行うヤマト・ランカ財団理事長としても尽力されておられます。

さらに博士は緻密なアビダルマ研究だけに留まらず、タイで出家修行し、タイ王国からは日本人としてはじめて「佛教学術功労賞」(The Buddhagunupakan Award of Excellence)を受賞され、さらに立正大学からは、行学二道に励まれた功績により「蘊奥本賞」が贈られました。

以上の諸理由により、また当研究所に対する隠れたご貢献により、三友健容博士は中村元東方学術賞を授与するに相応しい極めて顕著な功績を挙げられたものと判断され、

今回の授賞となった次第であります。